

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-205944

(43)公開日 平成9年(1997)8月12日

(51)Int.Cl.⁶

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

A 0 1 K 87/08

A 0 1 K 87/00

6 2 0 E

審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 9 頁)

(21)出願番号 特願平8-15386

(22)出願日 平成8年(1996)1月31日

(71)出願人 000002495

ダイワ精工株式会社

東京都東久留米市前沢3丁目14番16号

(72)発明者 山本 茂

東京都東久留米市前沢3丁目14番16号

ダイワ精工株式会社内

(72)発明者 松原 貞二

東京都東久留米市前沢3丁目14番16号

ダイワ精工株式会社内

(72)発明者 大山 実良

東京都東久留米市前沢3丁目14番16号

ダイワ精工株式会社内

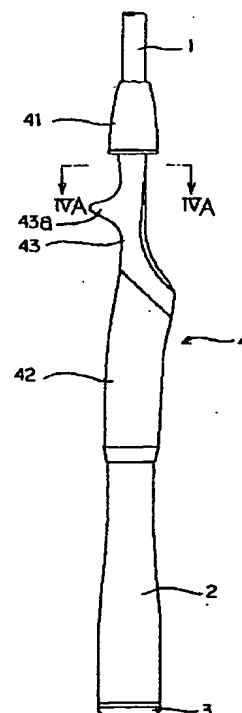
(74)代理人 弁理士 鈴江 武彦

(54)【発明の名称】 釣り竿

(57)【要約】

【課題】本発明は、パーミング操作性に優れ、しかもパーミングする握り方でキャストを行うことが容易である釣り竿を提供することを目的とする。

【解決手段】竿管上にリール載置部を含む把持部を有する釣り竿であって、前記リール脚設置部の裏側であって、前記釣り竿と前記リール脚設置部に載置されたリールとを片手で把持した状態で投てき動作をするのに好適な位置に指掛け部を有することを特徴としている。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 竿管上にリール載置部を含む把持部を有する釣り竿であって、前記リール脚設置部の裏側であって、前記釣り竿と前記リール脚設置部に載置されたリールとを片手で把持した状態で投てき動作をするのに好適な位置に指掛け部を有することを特徴とする釣り竿。

【請求項 2】 竿管上にリール載置部を含む把持部を有する釣り竿であって、前記リール脚設置部の裏側であって、前記釣り竿と前記リール脚設置部に載置されたリールとを片手で把持した状態で投てき動作をするのに好適な位置に指掛け部を有し、前記リール脚設置部における前記指掛け部より竿先側の領域が比較的幅狭に形成されており、前記リール脚設置部における前記指掛け部より竿元側の領域が比較的幅広に形成されていることを特徴とする釣り竿。

【請求項 3】 竿管上にリール載置部を含む把持部を有する釣り竿であって、前記リール脚設置部の裏側であって、前記釣り竿と前記リール脚設置部に載置されたリールとを片手で把持した状態で投てき動作をするのに好適な位置に指掛け部を有し、前記指掛け部が前記竿管の軸

に関して偏位するように形成されていることを特徴とする釣り竿。

【請求項 4】 竿管上にリール載置部を含む把持部を有する釣り竿であって、前記リール脚設置部の裏側であって、前記釣り竿と前記リール脚設置部に載置されたリールとを片手で把持した状態で投てき動作をするのに好適な位置に第 1 の指掛け部を有し、第 1 の指掛け部よりも竿元側に前記第 1 の指掛け部よりも小さい少なくとも一つの第 2 の指掛け部を有することを特徴とする釣り竿。

【請求項 5】 竿管上に把持部を有する釣り竿において、前記把持部は、前握り部と、2 つの側部を有する後握り部と、前記前握り部および前記後握り部との間に設けられたリール脚設置部とを有し、前記後握り部の一方の側部が外側に向かって膨出する膨出形状を有し、他方の側部がほぼ平坦な形状を有することを特徴とする釣り竿。

【請求項 6】 竿管上に把持部を有する釣り竿において、前記把持部は、前握り部と、後握り部と、前記前握り部および前記後握り部との間に設けられたリール脚設置部とを有し、前記後握り部が竿元に向かって縮径する形状を有することを特徴とする釣り竿。

【請求項 7】 竿管上に把持部を有する釣り竿において、前記把持部は、前握り部と、後握り部と、前記前握り部および前記後握り部との間に設けられたリール脚設置部とを有し、前記後握り部の直径が 17 ~ 27 mm であることを特徴とする釣り竿。

【請求項 8】 竿管上に把持部を有する釣り竿において、前記把持部は、前握り部と、後握り部と、前記前握り部および前記後握り部との間に設けられたリール脚設置部とを有し、前記前握り部の竿元側の端部が少なくと

も部分的に前記リール脚設置部により覆われていることを特徴とする釣り竿。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は釣り竿に関し、特に釣り竿操作性を改良した釣り竿に関する。

【0002】

【従来の技術およびその課題】 ルアーにアクションを与えたり、魚をフッキングする操作を行う際には、通常釣り竿とリールを片手で把持して釣り竿操作（パーミング）を行う。このため、釣り竿の把持部（ハンドル部）におけるパーミングの行い易さが釣り竿操作性に大きく影響を及ぼす。

【0003】 従来、パーミングのし易さを考慮した釣り竿としては、例えば実開平 1-82765 号公報において開示されているものが挙げられる。この公報に記載されている釣り竿は、リール脚設置部の側方に膨出部を形成したものであり、この膨出部によりパーミングを行い易くしている。

【0004】 しかしながら、この釣り竿においては、通常、釣り竿のリール載置側とは反対側に設けられた指掛け部（トリガー）に入差し指を掛けてキャストを行う、トリガーを薬指と小指で挟むようにし、親指でリール上面を押さえるようにしてパーミングを行う。このため、キャストとパーミングで釣り竿を持ち変える必要がある。すなわち、この釣り竿では、特定の握り方でキャストとパーミングの両方を行うことは非常に難しい。このようにキャストの握りからパーミングの握りに持ち変えると、キャスト後に迅速にパーミング状態に入ることができず、キャスト後、急に当たりが来た場合等に迅速な対応をすることができないという問題がある。

【0005】 本発明はかかる点に鑑みてなされたものであり、パーミング操作性に優れ、しかもパーミングする握り方でキャストを行うことが容易である釣り竿を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】 本発明者らは、釣り竿の把持部における前握り部、後握り部、およびリール載置部の構造を検討した結果、パーミングする握り方でキャストを行うことができる種々の構造を見出し本発明をするに至った。

【0007】 すなわち、本発明は、竿管上にリール載置部を含む把持部を有する釣り竿であって、前記リール脚設置部の裏側であって、前記釣り竿と前記リール脚設置部に載置されたリールとを片手で把持した状態で投てき動作をするのに好適な位置に指掛け部を有することを特徴とする釣り竿を提供する。

【0008】 上記構成において、リール脚設置部における指掛け部より竿先側の領域が比較的幅狭に形成されて

おり、リール脚設置部における指掛け部より竿元側の領域が比較的幅広に形成されていることが好ましい。また、指掛け部が竿管の軸に関して偏位するように形成されていることが好ましい。また、指掛け部よりも竿元側に指掛け部よりも小さい少なくとも一つの他の指掛け部を有することが好ましい。

【0009】また、本発明は、竿管上に把持部を有する釣り竿において、前記把持部は、前握り部と、2つの側部を有する後握り部と、前記前握り部および前記後握り部との間に設けられたリール脚設置部とを有し、前記後握り部の一方の側部が外側に向かって膨出する膨出形状を有し、他方の側部がほぼ平坦な形状を有することを特徴とする釣り竿を提供する。

【0010】また、本発明は、竿管上に把持部を有する釣り竿において、前記把持部は、前握り部と、後握り部と、前記前握り部および前記後握り部との間に設けられたリール脚設置部とを有し、前記後握り部が竿元に向かって縮径する形状を有することを特徴とする釣り竿を提供する。

【0011】また、本発明は、竿管上に把持部を有する釣り竿において、前記把持部は、前握り部と、後握り部と、前記前握り部および前記後握り部との間に設けられたリール脚設置部とを有し、前記後握り部の直径が17～27mmであることを特徴とする釣り竿を提供する。

【0012】また、本発明は、竿管上に把持部を有する釣り竿において、前記把持部は、前握り部と、後握り部と、前記前握り部および前記後握り部との間に設けられたリール脚設置部とを有し、前記前握り部の竿元側の端部が少なくとも部分的に前記リール脚設置部により覆われていることを特徴とする釣り竿を提供する。

【0013】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を図面を参照して具体的に説明する。

（第1の実施形態）図1は本発明の釣り竿の第1の実施形態を説明するための正面図であり、図2は本発明の釣り竿の第1の実施形態を説明するための平面図である。

【0014】図中1は繊維強化プリプレグからなる竿管を示す。竿管1の一方の端部（後端部）には、端部握り部2が設けられており、竿尻部品3が取り付けられている。また、竿管1の後端部よりも小径側には、把持部（ハンドル部）4が設けられている。

【0015】竿管1を構成する繊維強化プリプレグは、特定方向に引き揃えた強化繊維に樹脂を含浸してなるものであり、繊維強化プリプレグを構成する強化繊維としては、炭素繊維、ガラス繊維、アルミナ繊維、アラミド繊維等を用いることができ、含浸させる樹脂としては、エポキシ樹脂、フェノール樹脂、ポリエステル樹脂等を用いることができる。

【0016】端部握り部2は、握持し易い大きさ（外径）、形状（例えば上面、すなわちリール搭載側や両側

面を平面状にする）に形成する。端部握り部2を構成する材料としては、繊維強化プラスチック（FRP）等を用いることができる。このような材料を用いることにより、高強度で軽量であり、魚信感知性に優れたものになることができる。なお、合成樹脂やコルク等を用いることもできる。

【0017】竿尻部品3を構成する材料としては、合成樹脂や、アルミニウム、真鍮、ステンレス鋼等の金属等を用いることができる。ハンドル部4は、主に前握り部41、後握り部42、および前握り部41と後握り部42との間に設けられたリール脚設置部43から構成されている。前握り部41は、回動可能にリール脚設置部43に取り付けられており、釣り竿に対してリールを着脱する際に回動させる。なお、リール脚設置部にリール脚を取り付ける構造としては、上記のように前握り部および/または後握り部を回動可能に構成して（図1では前握り部のみが回動可能に構成されている）リール脚をハンドル部のリール脚受入れ部（フード）43cに嵌合させるような構造でも良く、前握り部および/または後握り部にリール脚をねじ止めする構造でも良い。

【0018】前握り部41および後握り部42を構成する材料としては、人工コルク、天然コルク、発泡体材料、合成樹脂、木材等を用いることができる。なお、前握り部41には、ねじ部やリール脚受入れ部が形成されているので、その部分には補強のために金属やセラミックからなる部材を設けても良い。

【0019】リール脚設置部43のリール搭載側と反対側（裏側、すなわち指が接触する側、以下、指触側という）であって、釣り竿とリール脚設置部に載置されたリールとを片手で把持した状態で投てき動作をするのに好適な位置に、指ずれを防止し、釣り人が釣り竿を確実に把持できるような形状を有するトリガー（指掛け部）43aが設けられている。ここで、釣り竿とリール脚設置部に載置されたリールとを片手で把持した状態で投てき動作をするのに好適な位置としては、例えば、リール脚受入れ部43c間や、側部膨出部43d近傍であり、具体的には、図3（A）においてリール脚設置部43上に設置されたリール5のクラッチ5aからの竿管1の軸に対する仮想線Xの延長線上の位置や、リールのスプールの軸芯の位置またはその位置近傍（±1～2cmの範囲）の位置等が挙げられる。

【0020】リール脚設置部43を構成する材料としては、繊維強化プラスチック（FRP）、合成樹脂等を用いることができる。また、手が接触する部分には、ゴム等の弾性部材を設けることが好ましい。また、トリガー43aは、リール脚設置部43を形成する際に一体に形成しても良く、トリガー43aを別部材として作製し、その後これをリール脚設置部43に接着等の方法により取り付けても良い。また、トリガー43aよりも竿元側の指触側表面は、指ずれを防止し、釣り人が釣り竿を確

実に把持できるような形状を有していることが好ましい。例えば、トリガー43aよりも小さいトリガーを設けても良く、把持した指に対応した凹凸を設けても良い。

【0021】上記構成を有する釣り竿を用いる場合、例えば図3(A)に示すようにして釣り竿を手6で握持する。すなわち、人指し指6aをトリガー43aに掛け、中指6b、薬指6c、小指6dでトリガー43aより竿元側のリール脚設置部43および後握り部42の指触側を握り、さらに手の平と親指6eでリール5の側壁部および上側部を押さえるようにして釣り竿を握持する。

【0022】このようにして本発明の釣り竿を握持すると、トリガー43aがリール脚設置部の指触側であって、釣り竿とリール脚設置部に載置されたリールとを片手で把持した状態で投てき動作をするのに好適な位置、すなわち図3(A)においてリール5のクラッチ5aの位置のほぼ下方の位置に形成されているため、人指し指6a～小指6dの4本の指と手の平により釣り竿を確実に握持することができ、親指6eでリール5を確実に押さえることができる。したがって、リール5と釣り竿を同時に確実に把持(パーミング)することができる。また、このような握り方においては、前述したようにリール5と釣り竿を確実に把持することができるので、そのまま投てき動作(キャストイング)を行うことができる。また、上記のような握り方においては、図3(B)に示すように、親指6eによりスプールをON-OFFさせるクラッチ5aの操作を容易に行うことができる。

【0023】このように、本発明の釣り竿は、パーミングした状態でキャストイングすることができ、キャストイング後にそのまま釣り竿やリールの操作を行うことができる。この場合、手がずれたりすることなく、確実にパーミングおよびキャストイングを行うことができるので、手が痛くなったり、疲れたりすることがない。

(第2の実施形態) 本発明の釣り竿において、リール脚設置部43におけるトリガー43aより竿先側の領域が比較的幅狭に形成されており、リール脚設置部におけるトリガー43aより竿元側の領域が比較的幅広に形成されていることが好ましい。例えば、リール脚設置部におけるトリガー43aより竿元側の領域がリール脚設置面に対してほぼ平行な方向に幅広(偏平形状)であることが好ましい。

【0024】このような形状にすることにより、幅狭の領域では、キャストイングの際に指(人指し指6a)を巻き付けるようにして掛けることができ、パーミング状態においてもキャストイング操作がし易くなり、また幅広の領域では、中指6b、薬指6c、および小指6dの力が入れ易く、確実に釣り竿を握持することができる。したがって、パーミングおよびキャストイングを行うことがより容易となり、しかもキャストイングの際の釣り糸の方向性が制御し易くなる。

(第3の実施形態) 図4(A)に示すように、リール脚設置部43におけるトリガー43aは、ハンドル部4よりも下方に延出しており、指掛け部として使用される。この場合、トリガー43aが竿管1の軸に関して偏位するように形成されていることが好ましい。ここで、トリガー43aが竿管1の軸に関して偏位するとは、例えば、図4(B)に示すように、トリガー43aの楕円断面の長軸方向と竿管1の軸長方向とのなす角 α が 90° 以外の角度になるようにトリガー43aが形成されていること(右傾斜または左傾斜)や、図4(C)に示すように、トリガー43aの楕円断面の短軸方向と竿管1の軸長方向との間に距離dを設けるようにトリガー43aが形成されていることを意味する。具体的には、 α は指を掛ける角度やパーミング時の手の把持状態を考慮すると、 $45^\circ \leq \alpha \leq 85^\circ$ であることが好ましく、dは竿管の軸から膨出している膨出部の1/2以下程度であることが好ましい。

【0025】また、この場合、トリガー43aの横断面形状としては、楕円形状の他、S字形状、前側が円弧で後側が平坦である略D字形状等を挙げることができる。なお、この場合、トリガー43aを設ける位置は、第1の実施形態において、トリガー43aを設ける位置よりも竿先側や竿元側にずれていても良い。

【0026】上記のように、トリガー43aを竿管1の軸に関して偏位させて形成することにより、パーミング時の種々の釣り竿操作において、手の形に釣り竿をフィットさせた持ち方をすることができる。例えば、指先をトリガー43aに引掛けたいとき、釣り竿の軸芯に対して釣り竿の重心を左右に移動させて釣り竿とリール等との間のバランスを取るとき、または手と釣り竿の角度を調節したいとき等に、いずれの場合でも手の形に釣り竿をフィットさせた持ち方をすることができる。なお、トリガー43aの偏位の方向は、左利き専用、右利き専用、もしくはリールの種類により適宜選択することが好ましい。

(第4の実施形態) 本発明の釣り竿において、リール脚設置部43におけるトリガー43aよりも竿元側にトリガー43aよりも小さい少なくとも一つの他のトリガー(図8における43e)を有することが好ましい。この場合、他のトリガーは、パーミング性を考慮すると、トリガー43aよりも小さいことが必要である。

【0027】このように複数のトリガーを設けることにより、パーミングした状態でキャストイング操作を行い易くなる。また、この他のトリガーは、トリガー43aよりも小さいので、釣り竿操作を妨害しない。

(第5の実施形態) 図5は本発明の釣り竿の第5の実施形態を説明するための平面図であり、図6は本発明の釣り竿の第5の実施形態を説明するための正面図であり、図7(A)は図5におけるVIIA-VIIA線に沿う断面図であり、図7(B)は図5におけるVIIB-VIIB線に沿う断

面図であり、図7(C)は図5におけるVIIC-VIIC線に沿う断面図である。図5および図6において、図1と同じ部分については図1に示す参照符号と同じ参照符号を付してその詳細な説明は省略する。

【0028】図5に示すように、後握り部42は、一方の側部(図5において右側)が外側に向かって膨出する膨出形状を有しており、他方の側部(図5において左側)がほぼ平坦な形状を有している。この後握り部42は、図7(A)~図7(C)に示すように、左右非対称である形状を有している。すなわち、図5における側部の稜線が左右で異なっている。また、一方の側部の膨出部42aは、図7(C)から分かるように、キャスト操作時の手の平の窪みの位置を考慮して、竿管1の軸芯より上方に設けられている。また、他方の側部の平坦部42bは、後握り部42の厚さ方向(図7における上下方向)において、所定の長さを有するように設けられている。この所定の長さとは、パーミングの際に手の平と当接するために十分な長さをいう。なお、膨出部42aや平坦部42bを形成する側部は、利き手、取り付けるリールの形状、構造等を考慮して適宜判断する。通常は、パーミング・キャストする手の側部に平坦部42bを設ける。例えば、左手でパーミング・キャストする場合には、図5に示すように、図5において左側部に平坦部42bを設ける。

【0029】このような構成にすることにより、キャストが容易となり、しかもパーミングした状態でキャストを確実に行うことができ、釣り竿操作性を向上させることができる。

(第6の実施形態)本発明の釣り竿において、後握り部42は竿元に向かって縮径する形状を有することが好ましい。なお、この場合、縮径の程度は特に制限されない。すなわち、縮径する形状において、傾斜が急であっても緩くても良い。また、縮径する形状において、徐々に径が細くなる必要はなく、全体として後握り部42が竿元に向かって縮径していれば良く、その途中に同じ径の領域(縮径していない領域)が含まれていても良い。

【0030】このような構成にすることにより、キャストが容易となり、しかもパーミングした状態でキャストを確実に行うことができ、釣り竿操作性を向上させることができる。

(第7の実施形態)本発明の釣り竿において、後握り部42は直径が17~27mmであることが好ましい。この直径は、後握り部42のさしわたし寸法を意味する。また、この直径は、後握り部42の厚さ方向(リール脚設置面に対して垂直な方向)と幅方向(リール脚設置面に対して平行な方向)の寸法の平均である。また、厚さ方向および幅方向の両方向において後握り部42の最大径が17~27mmの範囲内であることが好ましい。さらに、リール脚を嵌合させるリール脚設置部の後方のフードから約4~10cmの範囲内に直径15~22mm

である領域を設けることが特に好ましい。

【0031】従来の釣り竿においては、後握り部42の厚さ方向と幅方向の寸法の平均が30mm以上であるため、パーミングした状態でキャスト操作を行うことは容易ではなかったが、上記構成にすることにより、小指側での握り込みが容易となり、パーミングした状態でキャストを確実に行うことができ、釣り竿操作性を向上させることができる。

(第8の実施形態)図8は本発明の釣り竿の第5の実施形態を説明するための正面図であり、図9は本発明の釣り竿の第5の実施形態を説明するための平面図である。図8および図9において、図1と同じ部分については図1に示す参照符号と同じ参照符号を付してその詳細な説明は省略する。

【0032】リール脚設置部43の竿先側の外周面と前握り部41の内周面には、ねじが切っており両者が螺合している。したがって、前握り部41を回動させて竿先方向に移動させた状態で、リール脚設置部43にリール脚を当接させ、固定フードを固定フード受入れ部に挿入し、さらに移動フードを移動フード受入れ部に挿入して、前握り部41を回動させて竿元方向に移動させてリールを釣り竿に固定するように構成されている。

【0033】本実施形態においては、前握り部41の竿元側の端部がリール脚設置部43の保護部44により覆われた構成を有する。この保護部44は前握り部41の竿元側の端部全体を保護するように覆っていても良く、図8に示すように部分的に覆っていても良い。なお、前握り部41は、リール取り付けの際に回動させる必要があるため、保護部44は部分的に設けることが好ましい。また、この保護部44は、図8においては、リール脚設置部43に一体として形成されているが、別体として保護部材を形成し、リール脚設置部43に接着、溶着等の方法により接続しても良い。

【0034】このような構成にすることにより、パーミング状態においてキャストする際に、保護部44があるために、指、特に人指し指が前握り部41に当たっても前握り部が回ることがなく、キャストの際に前握り部41が回動してリール脚の固定が緩むことを防止できる。したがって、安定して長時間にわたって釣り竿操作を行うことができる。このような構成によれば、力を入れてキャストした場合であっても、前握り部41の回動による緩みを防止することができる。

【0035】本実施形態においては、図9に示すように、リール脚設置部43に膨出部43bを設けても良い。なお、膨出部43bを設ける側は、利き手、取り付けるリールの形状、構造等を考慮して適宜判断する。通常は、パーミング・キャストする手の側に膨出部43bを設ける。例えば、左手でパーミング・キャストする場合には、図9に示すように、図9において左側部に膨出部43bを設ける。

【0036】このような構成にすることにより、キャストが容易となり、しかもパーミングした状態でキャストを行うことができると共に、前握り部 41 の回動による緩みを防止することができ、釣り竿操作性を向上させることができる。

【0037】なお、上記第 1～第 8 の実施形態は適宜組み合わせることで実施することが可能である。本発明は、上記実施形態はこれに限定されず、種々の変形例に応用適用することができる。例えば、前握り部を柔軟材で構成し、後握り部を硬質材で構成したり、前握り部を滑りにくい材料で構成し、後握り部を滑り易い材料で構成しても良い。また、前握り部および後握り部に表面処理を施して前記特性は発揮させるようにしても良い。

【0038】このようにすることにより、パーミングが容易となり、しかも釣り竿操作中に腕に後握り部が当たっても引掛かりにくくなり、釣り竿操作性に悪影響を与えることを防止できる。また、後部握り部を固定する場合に FRP 竿管のような中空管を用いても良い。

【0039】

【発明の効果】以上説明したように本発明の釣り竿は、竿管上にリール載置部を含む把持部を有する釣り竿であって、パーミングした状態でキャストを行うことができる構造を有するので、キャストの握りからパーミングの握りに持ち変える必要がなく、キャスト後、急に当たりが来た場合等に迅速な対応をすることができる。

【0040】また、本発明の釣り竿によれば、パーミング時においてリールの切り換えクラッチの操作等も容易となる。さらに、本発明の釣り竿によれば、手がずれたりすることなく、確実にパーミングおよびキャストを行うことができるので、手が痛くなったり、疲れたりすることがなく、長時間にわたって釣り竿操作を行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の釣り竿の第 1 の実施形態を説明するための正面図。

【図 2】本発明の釣り竿の第 1 の実施形態を説明するための平面図。

【図 3】(A) は本発明の釣り竿の第 1 の実施形態の使用状態を説明するための正面図、(B) は本発明の釣り竿の第 1 の実施形態の使用状態を説明するための平面図。

10 【図 4】(A) は図 1 における IVA-IVA 線に沿う断面図、(B) は本発明の釣り竿の第 3 の実施形態の一例を説明するための平面図、(C) は本発明の釣り竿の第 3 の実施形態の他の例を説明するための平面図。

【図 5】本発明の釣り竿の第 5 の実施形態を説明するための平面図。

【図 6】本発明の釣り竿の第 5 の実施形態を説明するための正面図。

【図 7】(A) は図 5 における VIIA-VIIA 線に沿う断面図、(B) は図 5 における VIIB-VIIB 線に沿う断面図、(C) は図 5 における VIIC-VIIC 線に沿う断面図。

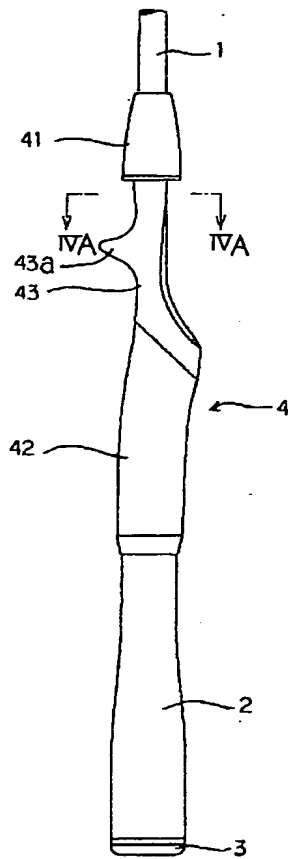
20 【図 8】本発明の釣り竿の第 8 の実施形態の一例を説明するための正面図。

【図 9】本発明の釣り竿の第 8 の実施形態の他の例を説明するための平面図。

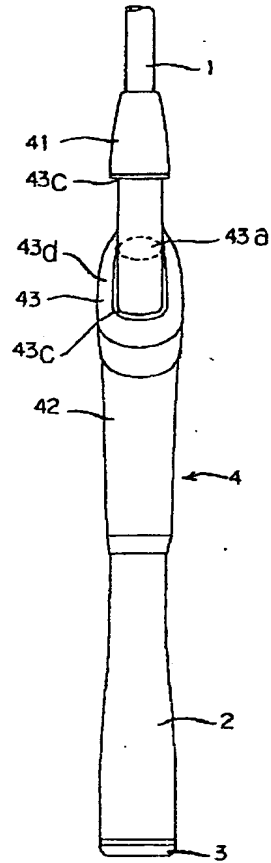
【符号の説明】

1…竿管、2…端部握り部、3…竿尻部品、4…把持部、5…リール、5a…クラッチ、6…手、6a…人差し指、6b…中指、6c…薬指、6d…小指、6e…親指、41…前握り部、42…後握り部、42a、43b…膨出部、42b…平坦部、43…リール脚設置部、43a、43e…トリガー、43c…リール脚受入れ部、43d…側部膨出部、44…保護部。

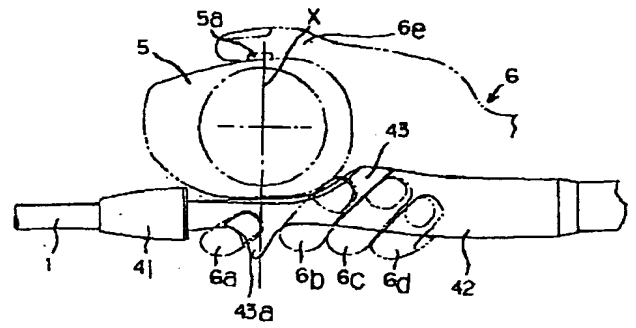
【図1】



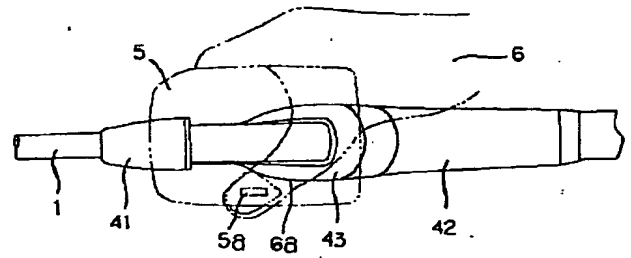
【図2】



【図3】

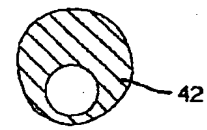


(A)

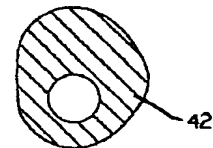


(B)

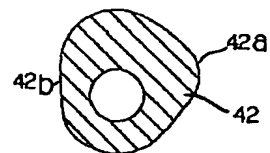
【図7】



(A)

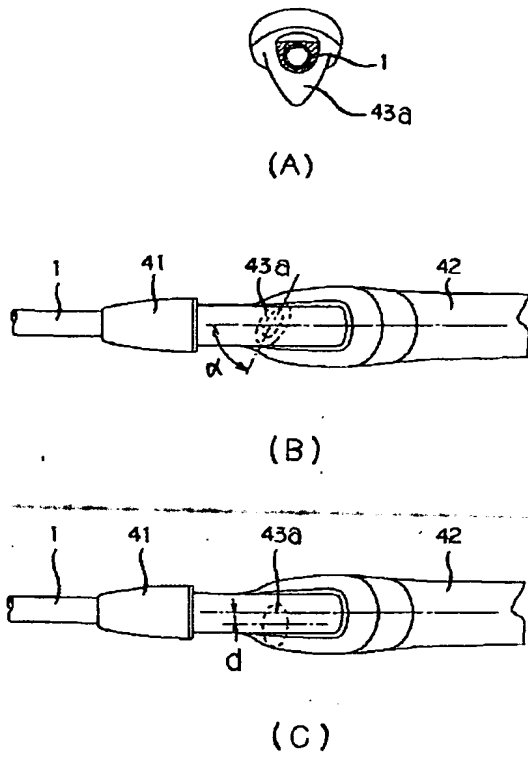


(B)

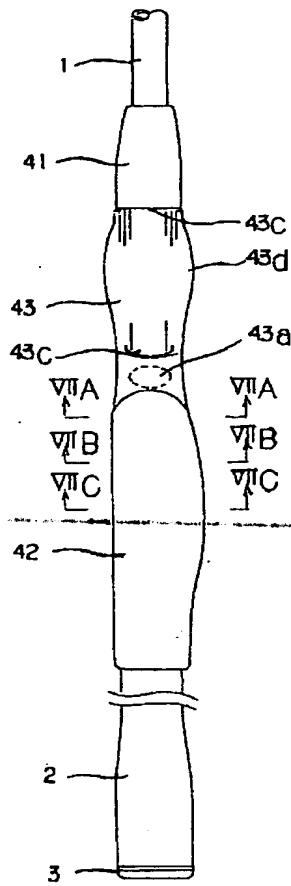


(C)

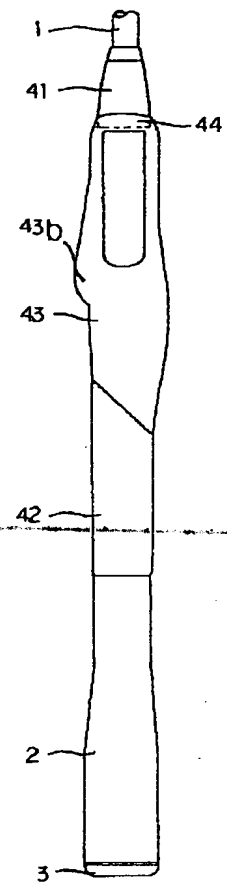
【図4】



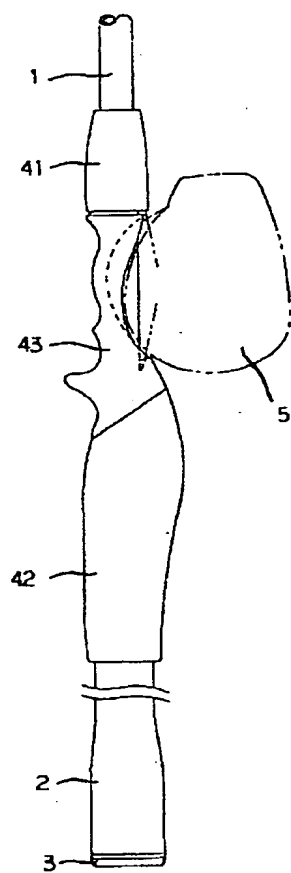
【図5】



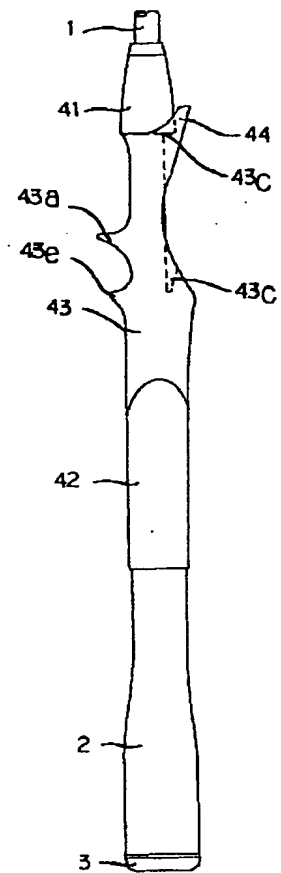
【図9】



【図6】



【図8】



THIS PAGE BLANK (USPTO)